

TP COIL を通した私の学び

国際社会学部 中東地域

アラビア語2年

齋藤 公佑

1) 学内での授業

学内にいながらアメリカの学生と交流できる環境は私にとって大変魅力的でした。私は、特に政治・国際関係に興味があるため、日米開戦に関わる授業でアメリカの大学で学ぶ学生と直接意見交換をした授業は大変印象に残っています。また、コロナ禍で海外渡航が難しい状況下で、このような刺激的な経験を日本にいながらできたことは勉強のモチベーション維持にも大変効果的でした。

【私がこれまで履修した授業】

- ・インストラクショナルデザインと異文化間交流
- ・Pacific War revisited

2) 学生ワークショップについて

私は「湾岸戦争前後における日米関係と日本の国際貢献に関する変化」というテーマの元、UCR の学生に対してプレゼンテーションを行いました。私は本学でアラビア語と中東を専攻しているため、中東地域とそれに大きな影響を与えるアメリカという国に対して大きな興味を持っていました。そのため、アメリカの学生に対し、上記のテーマでプレゼンができたことは大変貴重な機会であったと思います。プレゼンテーションとその後のディスカッションを通して、日米の対中東外交政策に対するアメリカの学生が持つ率直な意見を聞くことができ、大変面白い交流ができました。

3) TP ワークショップについて

TP ワークショップは日本研究に従事する研究者の会合ということもあり、普段アラビア語を主に勉強している学生にとって、発表の内容は馴染みのあるものではありませんでした。しかし、研究内容は多岐に渡り、多様性に富むものでありとても面白く感じました。特に、アイヌ研究について発表を行う海外の学者がいたことは印象的でした。私はこれまで個人的にアイヌについて深く学んだことがなかったため、国外の日本研究におけるアイヌは極めてマイナーな研究テーマであると勝手に推測していました。しかし、この経験を通して、海外の日本研究におけるアイヌに対する注目度の高さを実感することができました。このように、私が意識しなかったものが、異なる環境下では違った印

象を持たれていることを知ることができました。

4) 最後に

COILの授業や学生ワークショップを通して、言語運用能力の向上だけに留まらない成果を得ることができたと強く感じています。私はCOILの授業や学生ワークショップに参加する中で多くの人々に出会うことができました。そして、それがこのプログラムに参加して得る事ができた最も価値のある経験の一つだと考えています。また、多くの人々との交流の中で、本学の学生にせよ、アメリカの学生にせよ、全ての人が異なる考えや信条に基に生きていることを実感しました。だからこそ、自分とは違う人の話に耳を傾け、理解を深めようとしたその過程やそこから生まれた信頼は、大切にしなければならぬと思います。

写真：お昼ご飯になんとシリア料理が出てきました！アメリカ社会の多様性を感じます。



写真：大学構内の写真です。

